

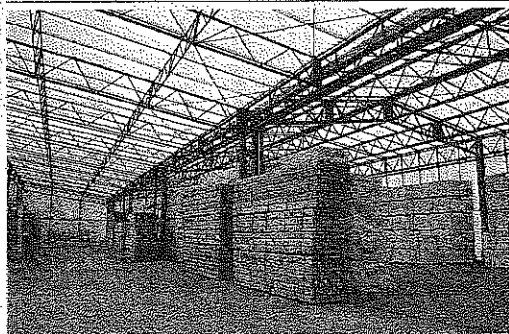
川崎港置き場内に倉庫新設

水濡れ防止で保管能力向上

瀬崎林業

瀬崎林業(大阪市、遠野嘉之社長)は、神奈川県川崎市の川崎港にある同社資材置き場敷地内に新たな倉庫を設置した。水濡れなどを防ぐ製品品質保持につながるほか、首都圏の木材在庫・配送拠点として機能させていく。

同社ではチリ製材品のほか、梱包用LVLや合板なども取り扱っているが、資材の保管能力強化のため、このほど新たに倉庫を設置した。幅24×奥行48坪の1152平方坪で、既存の倉庫と合わせると1728平方坪となる。新倉庫には側面にも幕が張られてお



新倉庫には既にLVLやチリ材などを格納している。同社の取引先の中には横浜の梱包業者をはじめ、港湾付近で営業している顧客も多

い。このため、港に位置する同資材置き場を充実させることで、すぐに納品が必要な時や、小ロットでの納品時にもより円滑な対応が可能になる。

今後は可能な限り取り扱う資材のサイズを集約化していくことで、資材を運搬する際の作業の軽減を図るとともに、倉庫内のより効率的な活用を目指す考え。

川崎港では近年、食品や中古車関連などの倉庫や置き場が増えてきている一方、木材置き場は減少傾向にあ

る。加えて首都圏では、資材在庫を置く場所を確保しにくいという梱包業者も見受けられる。こうした状況の中、同社が港に在

庫機能を持つことにより、梱包業者にとっても必要最低限の手続き在庫で営業できるという点がメリットとなっている。